平成２６年3月２４日

第１２０号

関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

コンテナ苗の植栽　日向外１国有林（福島県福島市）

（撮影者：福島森林管理署　業務グループ）

平成25年度
関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会を開催

森林整備部　技術普及課

私と国有林「白銀の世界への誘い」

株式会社プリンスホテル
執行役員　苗場総支配人　宮坂　肇氏

平成25年度 関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会を開催

森林整備部　技術普及課

概要

２月12日・13日の両日、前橋市内において、第59回目となる森林・林業技術等交流発表会を開催しました。

関東森林管理局では、各地域の試行的な取組によって得られた新たな技術や研究成果等を多くの関係者が共有することにより、国有林野の管理経営や民有林における技術の普及・定着に資することに努め、もって地域林業の再生に寄与することを目的として、この発表会を開催したところです。

また、審査員として森林総合研究所多摩森林科学園の吉丸園長、宇都宮大学の谷本名誉教授、東京大学大学院農学部生命研究科の白石教授、東京農工大学の福嶋名誉教授、栃木県林業振興協会の福田女性部会長にご協力をいただきました。

挨拶する須藤局長

審査員の皆様

25課題の発表

12日は、国有林野職員をはじめ、民有林関係機関職員が取り組んだ16課題の発表がありました。

13日は、国有林野職員、民有林関係機関職員が取り組んだ6課題、林業を学ぶ高校生等から3課題の発表がありました。

発表の様子

特別講演

発表後には、株式会社森のエネルギー研究所代表取締役大場龍夫氏による「森林バイオマスの最新動向と導入のヒント」について特別講演が行われました。

大場氏による特別講演

講評と審査

特別講演後、吉丸審査員長から講評があり、発表全体を通して日常の業務や学業で多忙の中、情熱を持ち、積極的に諸課題に取り組み、得られた成果をとりまとめて発表いただいた素晴らしいプレゼンテーションであったと高い評価をいただきました。

審査の結果は、別表に示す最優秀賞１課題、優秀賞８課題です。

特筆されるのは、優秀賞の１つに高校生の発表が選ばれたことです。

参加者は、２日間で前回を上回るのべ４２０人を数え、盛会のうちに終了することができました。

今回ご発表いただいた皆様及び関係者の皆様に御礼申しあげますとともに、このような発表会を通じ、林業に携わる方々以外にまで、これまで以上に森林・林業への関心が深まることを期待しているところです。

発表の様子

部門別課題一覧

森林技術部門		入賞
渓畔林の再生～刈り出しと全刈りどちらが更新補助作業として適当か～	森林技術・支援センター 業務係長 須崎智応、 森林技術専門官 安藤博之	
航空レーザ計測による森林及び下層植生の現況把握等の調査結果について	関東森林管理局計画課 企画係長 野澤智明、 アジア航測株式会社 森林環境課 小川吉平	優秀賞
一貫作業システム実証試験の取組について	森林技術・支援センター 森林技術専門官 安藤博之、副所長 井上暢	
コンテナ苗を用いた低コスト造林技術の開発に向けて	茨城森林管理署 主任森林整備官 漆道真也、森林整備官 松井裕樹、 地域技術官 君嶋昭弘	
急傾斜地における架線系集材機械による搬出間伐について	群馬県西部県民局富岡森林事務所 主幹 下山慎二	
久慈郡大子町における施業の集約化の取組みについて	茨城県県北農林事務所大子林業指導所 技師 清水静也	優秀賞
低コスト林業推進のための路網整備・機械化の取組について	山梨県森林総合研究所 副主査 柘植賢二	
ニーズに応えた素材の生産・販売方法について	関東森林管理局資源活用課 供給計画係長 藤原智史	
大井川流域における提案型集約化施業の担い手確保に向けた取組	静岡県志太榛原農林事務所　森林整備課主査　櫻井健晴	優秀賞
セルダムの施工について	大井川治山センター 技術専門官 飯島和博、 日鐵住金建材株式会社 大隅久	
森林除染の最新の動向と森林放射性物質汚染対策センターの取組	森林放射性物質汚染対策センター 事業第七係長 藤代和成	優秀賞
森林除染事業地における放射線モニタリングについて	森林放射性物質汚染対策センター 事業第三係長 長尾美穂	最優秀賞
シイタケ原木の放射性セシウム除染の検討	群馬県立農林大学校　富澤忠大	
演習林内の作業道の設計	茨城県立大子清流高校 益子裕太	
森林ふれあい部門		
赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング活動調査(ホンドテンを指標種とした森林環境調査)	赤谷森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 石坂忠、 赤谷プロジェクト・サポーター　鈴木誠樹	
森林総合監理士(フォレスター)活動報告	中越森林管理署 森林技術指導官 石田健	優秀賞
森林総合監理士の活動と今後の展望 ～准フォレスター研修成果を踏まえて～	関東森林管理局技術普及課 森林技術普及専門官　高田悟	
森林・林業の専門高校における取組み　－秩父農工科学高校　森林科学科の取組－	埼玉県立秩父農工科学高校　松澤留汐、小久保直哉	優秀賞
森林保全部門		
ナラ枯れ防除の取組(おとり丸太法の試行)	会津森林管理署 森林整備官 仁平　亮	優秀賞
地域と連携したホソバシャクナゲ保全の取り組み	天竜森林管理署瀬尻森林事務所 森林官　坂本朋美	
東日本大震災における海岸防災林の復旧状況報告(1) －国、県協同による希少種保全の取り組みについて－	磐城森林管理署 治山技術官 岡川善尚、 国土防災技術株式会社 防災環境事業部次長　中澤洋	
伊豆地域におけるニホンジカ被害防止対策の取組について	伊豆森林管理署 森林技術指導官 山田徹、森林整備官 鈴木英樹、 ふれあい担当 彦田祥子	
トレイルカメラを用いて野生動物による造林木の皮剥被害を検証する	森林総合研究所森林農地整備センター福島水源林整備事務所 造林係主任　蓼内隼人、震災復興係主幹　滝沢勝	
ニホンジカの効率的捕獲のための取り組みについて	群馬県林業試験場 企画・自然環境係長 坂庭浩之	優秀賞
ニホンジカ影響簡易チェックシートによる被害影響調査について	関東森林管理局計画課 生態系保全係 山下綾香	

※　詳細は、関東森林管理局ホームページをご覧ください。　URL：http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/event/2014kenkyu_happyoukai.html

※発表順に準じて部門別に並べ替えています

受賞した皆様と審査員の方々

赤谷プロジェクト10周年シンポジウム

赤谷森林ふれあい推進センター

平成26年３月９日東京農工大学において、日本各地で「地域づくり」に携わり活躍されている方々をゲストにお迎えし、赤谷プロジェクトのシンポジウムを開催しました。

シンポジウムは三部構成からなり、年度末で都心から離れた会場でしたが、約１２０人の方が来場しました。

会場の様子

第一部　「赤谷プロジェクトの取組の紹介と問題提起」

赤谷プロジェクトの地元であるみなかみ町や赤谷プロジェクトの10年間の取組を紹介した後に、シンポジウムのテーマとして「自然環境から多くの恵みを得ることで、より持続力を持つ人の社会をつくるため、人と自然の新たな良い関係づくりをどう行っていくか」という問題提起を行い、パネルディスカッションが始まりました。

第二部　パネルディスカッション１「自然をいかした地域づくりの展望」

パネリストの皆様から、乗鞍山麓の五色ヶ原（岐阜県高山市）で行われているガイド事業の取組やゴールデンゲート国立公園（ＵＳＡ）での保全と利用に関する経緯の紹介、地元の人達が参加して地域振興を進めるためには住民のアイデアを引き出す対話能力が必要であるとの意見が出されました。

また、パネリストとして参加した林野庁国有林野部の沖部長からは、今後見込まれる人口減社会を見据えれば、都市部との連携をいかに進めるかがポイントであり、国有林も協力するので地域が主体となって取り組むことが重要である旨を述べられ、会場からの質疑も交えながら議論が行われました。

パネリストとして発言する

沖国有林野部長

第三部　パネルディスカッション２「赤谷プロジェクト　次の10年」

第一部のパネルディスカッションを踏まえ、協定を締結している三者が、今後の展望をそれぞれ述べるとともに「赤谷プロジェクトは里山資本主義の好事例であり、これからもフロントランナーとなって取り組んで欲しい」「三者の協働を持続させるためにも三者だけで固まらず、外部の人達との連携を一層進めて欲しい」などの期待も寄せられました。

最後に「生物多様性の復元の取組に対して科学的に検証すること、ようやく芽が出てきた「自然を生かした地域づくり」に向けて、これからの10年も協定三者で協力しながら、よりよい活動を目指すこと」を宣言し、閉会となりました。

パネリストとして発言する

寺川計画保全部長

今月の表紙「コンテナ苗を活用した造林」

福島県福島市の日向外１国有林で実施されたコンテナ苗植栽の検討会（実演）の風景です。

コンテナ苗を用いた実証的な植栽事業を行い、普通苗との比較による作業功程、生育状況等のデータを収集し、低コスト造林の確立を目指します。

写真は植栽するための穴を専用器具で開ける作業で、右下は、植栽されるコンテナ苗です。

※　コンテナ苗とは、専用の育成容器を用いて栽培した培地付きの苗木で、植付作業やその後の下刈作業等の効率化が期待されます。

小笠原諸島森林生態系保護地域指定ルート探訪記（その2）

躑躅（つつじ）山～巽（たつみ）谷

小笠原諸島森林生態系保全センター

小笠原諸島の森林生態系保護地域に入山する場合は、インパクトの少ない箇所に指定されたルートのみに限られています。

指定されたルートには、講習を受講しなければ入山することができない指定ルートが全部で23路線（内訳は父島12、母島9、南島1、聟島（むこじま）1）この他に制限のない指定ルートが8路線の全部で31路線になります。

これらのルートをガイド、観光客、研究者、行政職員などが利用し、年間の入り込み者は統計のあるものだけでも2万7千人になります。（平成24年度、南島、聟島を除く）

前回（本誌114号）に引き続き、千尋岩に向かうルートで躑躅山から先のコースを紹介します。

躑躅山から急斜面の岩場を慎重に下り主脈であるルートをしばらく進むと西側の眺望が開けて眼下に岩場と砂浜がおりなす美しい巽湾と太平洋の海原が広がります。

以前は、これらの海岸にも歩道があって、村民の方々が利用していたそうですが、現在は、自然環境を保全するために研究者などを除いて立ち入ることができなくなり島民の方々には不自由をお掛けしていますが、ご理解をいただいているところです。

眺望を楽しんだ後は、さらに下山を続けます。

しばらく進むと、鬱蒼と茂った樹林帯でオガサワラビロウなどヤシ科植物が亜熱帯の雰囲気を醸し出し、小さな沢も流れています。

島にある沢はどれも細くて心許ないものですが、ここもご多分に漏れずいつ枯れてもおかしくないような頼りない流れです。

父島は、火山活動によって生まれた火山島で、陸地を形成してから数百万年という年月が経っていますが、土壌の発達が未熟なためか、土中に含まれる成分が溶け出し沢水は、微かに乳白色を帯びているように見えると言われています。

小笠原に着任したときは、海の透明度とは対照的で、不思議に感じたのを覚えています。

それでも小笠原の沢水は林内の植生を支えている重要な要素です。

固有種のシマホルトノキの大木に熟した甘い実はアカガシラカラスバトの絶好の食源であるとともに、島民の方は、ウイスキーに漬け込みホルト酒として楽しんでいる人もいるそうです。

沢を後にし、平坦な道を行くと、枝を大きく広げた古木が2本寄り添うように立っています。

樹皮が黒く鱗片状に剥がれているオガサワラグワで、小笠原でも今ではほとんど目にすることのない稀少な樹木で私もこれだけ大きくなった木を見るのは初めてで思わず「大きい」と声がでました。

オガサワラグワは、非常に比重が重く、水に入れると沈んでしまうほどで、工芸品に加工するため利用価値が高く明治の入植時代から伐採されたため数が少なく、太いものは小笠原でも数本となってしまいました。

歩き続けたため疲れました、続きは次回といたします。

鬱蒼と茂った樹林帯

小笠原の澄んだ海

小さな沢の様子

オガサワラグワ

私と国有林
「白銀の世界への誘い」

株式会社プリンスホテル
執行役員　苗場総支配人　宮坂　肇

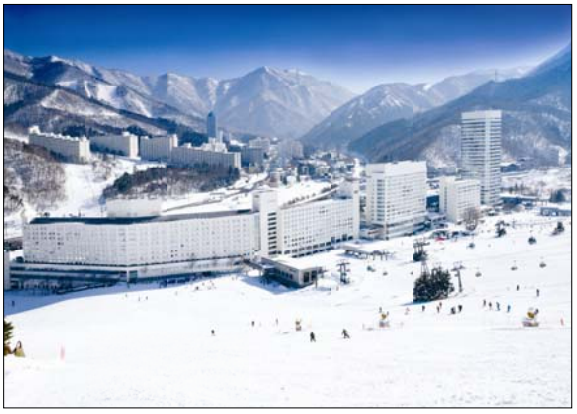
当社が営業する新潟県南魚沼地域に広がる自然豊かなエリアを紹介します。

このエリアは、上信越高原国立公園に指定され、国内外から多くの人々がスキー等や観光に訪れる地域です。

当エリアには苗場プリンスホテル、そして国有林野を管理する中越森林管理署から国有林野使用許可をいただいて事業を展開して苗場スキー場、かぐらスキー場、六日町八海山スキー場の魅力ある特徴について紹介します。

苗場プリンスホテルはスキー場のゲレンデ前に聳え立つ白亜のホテルで、イベントホールでの多彩なコンサートプログラムや地元新潟の味巡りをはじめ、ショッピングや苗場温泉、エステなど充実したホテルライフを満喫することができます。

また、室内のキッズゲレンデを使って段階的にスノーデビューができるパンダルマンキッズスクールも人気です。



プリンスホテル全景（手前は苗場スキー場）

苗場スキー場は、ワールドカップが開催された歴史などがあり、上級者からファミリーまで楽しめるスキー場となっています。

夏場はフジロックフェスティバルの会場として利用され毎年12万人前後の観客が来場し、苗場での開催が定着化しているところです。

秋は紅葉狩りでドラゴンドラ（苗場スキー場と田代スキー場を結ぶ全長５４８１㍍）に乗って感動の空中散歩が楽しめます。

かぐらスキー場は、みつまたロープウェーとかぐらゴンドラを乗り継ぐとパウダーな雪質と春スキーが楽しめるエリアとなっています。

ドラゴンドラに乗って紅葉の空中散歩

また、日本百名山の一つ「苗場山」（苗場自然休養林内）の登山口でもあり、和田小屋に１泊して登山を楽しむのも良いでしょう。

田代スキー場は、田代ロープウェー（日本一の瞬間地上高２３０㍍）でゲレンデに向かい、カンバやブナ林に囲まれたコースが開けています。

広大なエリアは、比較的緩やかでファミリーに人気のあるスキー場であり、眼下に広がる田代湖（カッサ湖）や上信越の山々の大パノラマが眺望できます。

六日町八海山スキー場は、霊峰八海山の麓にあって、八海山ロープウェーはロープウェー搬器内で運転できるのが特徴で、山頂駅付近の展望台からは遠く日本海まで眺望することができます。

また、国有林野内から湧出する硬度７の超軟水を購入し、「南魚沼のおいしい湧き水」として販売しております。

南魚沼エリアでは「地域とともに歩む国有林」を活用させていただきながら各種の事業を展開しておりますが、引き続き国有林を管理する中越森林管理署と連携を取り合いながら地域の発展に寄与して行けたなら幸いです。

南魚沼エリアにお出かけの際には、当施設をご利用いただきますよう皆様のご来場をお待ち申し上げております。

田代ロープウェー山頂から田代スキー場と苗場山を望む

森づくり最前線

群馬森林管理署　倉渕森林事務所　森林官　高橋 秀夫

倉渕森林事務所は群馬県高崎市に所在し、高崎市北西部に位置する倉渕地区を中心に、高崎市観音山周辺及び榛名町の一部を含む約３５００㌶の国有林を管理しています。

倉渕地区は面積の85㌫以上が森林で、以前に皇室御料林だった山林においてスギ、ヒノキ、カラマツ等の植栽・管理が積極的に行われたことから周辺の山林においても林業が盛んに行われています。

また、管内の国有林の多くは水源かん養保安林に指定されており、水源の確保や国土の保全等に役立っています。

現在、国有林の多くは伐期を迎えつつあり、順次更新が図られているところです。

造林地から望む倉渕地区

間伐、皆伐による生産事業や造林事業を行っているほか、近年では民有林との連携にも取り組んでおり、共同利用可能な林業専用道の作設や、民国共同の中間土場の整備が進んでおり、それに伴い地元の方々との打ち合わせも多く行われ、地域と密着した森林事務所といえます。

高崎市観音山周辺の国有林はJR高崎駅のほど近くにあり、高さ42㍍の白衣観音、洞窟観音や桜並木が美しい場所で、スポーツの森に指定され多くの人に利用されています。

上毛三山のひとつに数えられる標高約１４５０㍍の榛名山の一部も管理しています。

榛名山のほぼ中央に位置する榛名富士山頂の展望台からは３６０度の眺望が開けています。

本年度生産現場

榛名湖周辺は、避暑地として有名で、スポーツや釣りが盛んにおこなわれ、麓にある榛名神社は縁結びのご利益があり近年人気のようです。

さらに倉渕地区には幕末の有力な幕臣であった小栗上野介最後の地であり、所縁の史跡が点在しているほか、天然記念物として県指定されているヒカリゴケ及びウサギコウモリの生息洞穴や、周辺には色々な効能の温泉施設があり、県内外から訪れる人で賑わっています。

地域の方々の森林への関心も高く、地元企業や小中学校、大学による国有林を活用した林業体験イベントも多く行われています。

高性能林業機械の見学では、小学生だけでなく、同行した父兄の皆様や先生方にも大変ご好評をいただきました。

高崎白衣観音

当森林官になって間もなく丸二年が経とうとしていますが、初めは分からなかったことも、皆様に色々と教えていただきながら、現場の仕事を学ぶことができました。

先輩方から引き継いだ山を育て、地元と密な関係を築きながら、国有林だけでなく、地域全体の森林として、ゆくゆくは後輩に自慢できる形に育てていけるよう、今後も力を尽くしていきたいと考えています。

凍結した榛名湖から望む榛名富士

管内のいちおしスポット　君津市久留里

■ 千葉森林管理事務所　http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tiba/index.html
〒263-0034　千葉県千葉市稲毛区稲毛1-7-20
TEL:043-242-4656(代表)　FAX:043-242-4658

ＪＲ久留里駅に降り立つと、目の前に久留里の町並みを優しく抱くように緑の小高い山並みが見えます。

ここは房総半島のほぼ中央部に位置し、万葉の昔から房総の要地として知られ、南総里見八犬伝で有名な里見氏の居城であった山城、久留里城が築かれたところです。

久留里城は明治４年廃城取り壊しとなりましたが、地元の熱意により昭和53年に元の場所に天守閣が復元されました。

天守閣へは麓から車道、遊歩道が整備されており、永い歴史に思いをはせながらの散策には最適なコースです。

街道の面影を残した町並みを抜け、天守閣へ向かう前にコースを外れ、駅から久留里街道を南へ、少し足を伸ばすと美しい森林に覆われた山頂の緑の中に、白く輝く天守閣が築城以来数百年間、房総の雄城として輝かしい歴史を残した、久留里城の勇姿を偲ばせる姿を眺望することができます。

久留里風景林

天守閣へ向かうコースには、シイ、カシ、ナラなど広葉樹林とアカマツ、モミの針葉樹にシイ、カシ、ツバキなどの混じった美しい混交林の中を通り、途中には築城以来一度も落城したことがない、という名城の一端が忍ばれる自然の天険を見ることができます。

久留里城

天守閣からは、遠く豊かな上総の山並みと、城下町のたたずまいを残す久留里市街の眺望を楽しむことができます。

天守閣直下の歩道脇には男井戸、女井戸と呼ばれる二つの井戸が並んであり、どんな干ばつにも枯れたことがなかった井戸と言われ、城主一族の婚礼では花嫁・花婿がこの井戸から水を汲んで契りを結んだと伝えられており、恋と愛のパワースポットとして地元の隠れた名所となっています。

久留里の町内には、伝統的な上総掘りによって掘られた自噴井戸が至る所にあり、この自噴井戸群が平成の名水百選（環境省）に「生きた水・久留里」として選定されています。

自噴井戸（生きた水・久留里）

久留里の町に寄り添うよう久留里城を抱いた森林は昭和56年に久留里風景林に指定され、遊歩道等の施設が整備・管理されており、名水とともに地元市民から愛され、県内外から訪れる大勢の観光客を魅了しています。

久留里風景林へのアクセス

住所：千葉県君津市久留里
電車：ＪＲ久留里線久留里駅下車、徒歩25分
車　：圏央道木更津東ＩＣより国道410号線を鴨川方面へ約10キロメートル
バス：東京駅八重津口から直行バスがでています

（千葉森林管理事務所　広報広聴連絡官　高橋恒夫）

■編集　関東森林管理局総務課
■発行所
TEL（027）210-1158
FAX（027）230-1393